

第五節 教員養成課程

一 課程認定の発足と改正

昭和二十四年九月、「教育職員免許法」の施行により教員免許資格および免許状取得のための現職教育の方法などが明らかにされた。免許法の施行規則では、免許を取得するために大学において修得しなければならない一般教育科目、教科専門科目についての最低単位数などの基準が詳細に定められた。

新制度においては、免許法に定める基礎資格と単位を修得すればそれぞれ特色ある学問を修めながら教員の資格を修得することが可能となった。

本学では昭和二十六年四月の教職教養課程開設に向けて昭和二十五年九月、『教職教養課程設置要項』が作成された。

内容は以下のとおり。

1. 教員免許の学校及び教科の種別
 2. 教職教養課程教員組織
 3. 教職課程と学部学科の組織との関係
 4. 教職課程概要
 5. 学部学科別学生総定員及び教職課程履修希望者数
 6. 教育実習概要
 7. 教職関係科目の図書、標本、機械器具等施設概要
 8. 教職課程開設の時期
 9. 教職に関する課程についての従来状況
- ここでは「7.」を除き音楽学部に関する事項を掲載する。

昭和二十五年九月

教職教養課程設置要項

東京芸術大学

東京藝術大学教職課程設置要項

1. 教員免許の学校及び免許教科の種別

高等学校		中学校		免許の学校
假免許状	二級普通免許状	假免許状	二級普通免許状	免許状の種類
音楽、 図画、 工作	音楽、 図画、 工作	音楽、 図画、 工作	音楽、 図画、 工作	免許教科

2. 教職教養課程教員組織（本項のみ手書き）

職名	教授	教授	助教授	教授	助教授	教授
本務 兼務 の別	本務	本務	本務	本務	本務	本務
教職課程 担任	教育原理 教育史	教育心理学 青年心理学 教育評価	工作教育法 工作実習	図画教育法 図画実習	音楽教育法	
教職課程 担任	四 四	四 四	四 四 四	四 四	四 四	四
最終卒業 校学科名	昭和三、三、 東北帝国大学 法文学部	昭和六、六、 ベルリン大学 哲学教室	昭和二一、四、 東京帝国大学 文学部哲学科	大正六、三、 東京美術学校 師範科卒	大正一三、三、 東京美術学校 日本画科卒	大正九、三、 東京音楽学校 甲種師範科
学位 称号	文	独 哲博	文			
著書 及論文	著二 論一	著四 論一	著四	著九	著七	著九
教職 審査 通過	昭和二三、 三、六、	昭和二三、 一二、二五	昭和二三、 一一、八、	昭和二一、 八、二四、	昭和二一、 八、二四、	昭和二一、 九、一、
採用 予定 年月	昭和 二六、 四、一、	〃	〃	〃	〃	〃
氏名	田尾 一一	小塚 新一郎	櫻 林 仁	松 田 義之	日下 喜一郎	下 總 覚 三
教職 審査 科目	教職教育史 教育社会学 一般教育学	一般教育学 哲学 倫理学	一般教育学 心理学	教職教育 美術実習 教育実習指導	〃	音楽専門 作曲理論
所属 学部 科目	音楽学部	美術学部 一般教育学	美術学部 一般教育学	旧美術学校 師範科（工作）	（図画）	音楽学部 作曲
教職 外 担任 時間 数	四 四	四	四			一四
備考	教育 史 査 済			審 査 済	〃	

	教授		兼務
	音楽実習		
教育行政学	四	昭和四、三、 東京音楽学校 声乐科	
	著一 論六		
	昭和二一、 七、二七、		
〃	〃		
交渉中	城多又兵衛 明治三七、三、三〇、		
	音楽専門 声乐学 合唱		
	音楽学部 ソルベージ		
	一二		

3. 教職課程と學部學科の組織との關係

(イ) 教職課程を置く學部

美術學部

音樂學部

(ロ) 教職課程を履修させることのできる學部學科

美術學部—繪畫科、彫刻科、工藝科、建築科、藝術學科

音樂學部—作曲科、聲學^マ科、器樂科、指揮科、樂理科、邦樂科

邦樂科

4. 教職課程科目概要

必修科目	単位	選擇科目	単位
教育原理	四	教育史	四
教育心理學	四	教育行政學	四
圖畫教育法	四	教育社會學	四
同 實 習	三	青年心理學	四
工作教育法	四	教育評價	四
同 實 習	三		
音樂教育法	四		

5. 學部學科別學生總定員及び教職課程履修希望者數

同 實 習	三

學 部	學 科	定 員	教職課程履修希望者數
美術學部	繪畫科 彫刻科 工藝科 建築科 藝術學科	二四〇 一二〇 一六〇 四〇 八〇	一九二 九六 一二八 三二 六四
音樂學部	作曲科 ^マ 聲學 ^マ 科 器樂科 指揮科 ^マ 學理科 ^マ 邦樂科	二四〇 一六〇 一六〇 八〇 四〇 計 五二八	三二 一六〇 一二八 六 六四 三二 計 四二二
合 計		一一六八	九三四

6. 教育實習概要

1. 實習學校

(イ) 學 校 名	(ロ) 學級數	(ハ) 教 員 數
東京都立竹早高等學校	一二	教諭 二六名 その他 一名 二七名
東京學藝大學附屬 竹 早 中 學 校	六	教諭 九名 その他 六名 一五名
東京學藝大學附屬 竹 早 小 學 校	一二	教諭 一九名 その他 一名 二〇名

(ニ) 大學との關係 特に契約による

2. 教育實習指導計畫

小學校、中學校、高等學校の實地授業は擔當教官の指導の下に實習學校に於て實習を行い教授法の實際と教育の面における美術及び音樂の理論の研究をなす又その方法は學生の數に應じ數班に分ち一班は二〇名乃至二五名とし協同研究に當らせるなおこれは最終學年において實施する

7. 教職關係科目の圖書、標本、機械器具等施設概要〔省略〕

8. 教職課程開設の時期

昭和二十六年四月

9. 教職に關する課程についての從來の狀況

1. 東京美術學校〔省略〕

2. 東京音樂學校

明治十二年十月文部省に音樂取調掛として内外の音樂取調

並に東京師範學校附屬小學校等の唱歌教授を行つて以來

「音樂傳習生」を養成し同二十年三月東京音樂學校と改称し同二十一年一月本科を師範部と專修部に分ち同二十五年六月高等師範學校附屬音樂學校と改称し、もつはら音樂教員の養成に當り同三十二年四月獨立して東京音樂學校となつて以來師範部（科）を置いて今日に至る。

師範科の卒業生約一、四〇〇名が殆ど教職についたのは勿論本科の卒業生も「音樂」の免許狀が授與せられ全國中學校、高等學校の音樂教員として活躍している。

師範科の教科内容は左の通りです。

聲學、唱歌、ピアノ、合唱、音樂理論、音樂教授法及實習

音樂美學、音響學、音聲學、指揮法、音樂史、國語教育（二三學年每週一時間）心理（一學年每週二時間）外國語、体育

3. 東京藝術大學

本學開學と共に開講した教育學と心理學は將來教職教養課程における教育學又は心理學としての見込の下にカリキラムを編成して目下開講している狀況であります。

教育學擔任 教授 田 尾 一 一

心理學擔任 講師 櫻 林 仁

〔謄写版・タイプ〕（昭和二五年九月 教職教養課程設置要項 東京芸術大学）

昭和二十八年、教育職員免許法の一部が改正されて教職課程が開設されることとなり、本学ではそれに伴い、昭和二十九年三月、『教員養成課程認定申請書』が作成された。

内容は以下のとおり。

1. 学部学科組織及び学生定員
 2. 授與を受けさせようとする免許状の種類
 3. 免許教科に関する校舎等施設の概況
 4. 免許教科に関する図書、標本、機械器具
 5. 教科及び教職に関する専門科目並びに履修方法
 6. 学部又は学科、専攻別教員組織
 7. 教育実習概要
 - (別表第二) 音楽学部学科課程履修表
 8. 学則(本百年史『大学篇』参照)
- ここではその中から音楽学部に関係のある事項を掲載する。

昭和二十九年三月

教員養成課程認定申請書

東京芸術大学

一、学部学科組織及び学生定員

学部	学科及び専攻	学生定員	
美術	絵画科	入学定員	總定員
彫刻科	六〇	二四〇	
工芸科	六〇	二四〇	
建築科	一〇	四〇	
芸術学科	二〇	八〇	
作曲科	一五	六〇	
声学科	六〇	二四〇	

二、授與を受けさせようとする免許状の種類

計	邦楽科	楽理科	指揮科	器楽科
三五二	二〇	二五	二	五〇
一四〇八	八〇	一〇〇	八	二〇〇

三、免許教科に関する校舎等施設の概況(図面添付)(図面省略)

免 許 科	教 育 科	中 学 校	高 等 学 校	図 画 工 作	工 作	〃	図 画 工 作	中 学 校
室 名				実 習 室	実 習 室	化学 実験 室	講 義 堂	
全 所 属 学 部 学 科				美術 学部	〃	〃	〃	
坪 数								
室 数				一、〇 六四	四 六	六 六	一 一四	
總 坪 数				一、〇 六四	一、一 五三	六 六	三、七 三四	
別 共 用				専 用	専 用	専 用	専 用	
備 考							図 画 工 作 共 通 使 用	

高等学校 音楽	奏楽堂 実習室 講義室	音楽	一四八 六	一三〇 六四七 二〇八	専専専
------------	-------------------	----	----------	-------------------	-----

四、免許教科に関する図書、標本、機械器具

(一) 図書

種別	専用冊数	共用冊数	計
図画 工作	一八、九六六冊	二〇、四五七冊	三九、四二三冊
音楽	八、九五〇	一四、四四九	二三、三九九
計	二七、九一六	三四、九〇六	六二、八二二

(二) 標本

種別	専用点数	共用点数	計	備考
図画 工作	四三、〇八七点			絵画、工芸品、 彫刻作品
音楽	四六、〇一五	四三三		レコード、楽 譜各種古楽器
計	八九、一〇二	四三三	八九、五三五	

(三) 機械器具

種別	専用点数	共用点数	計	備考
図画	一五六点	二点	一五八点	画架及図板写 真器
工作	五二三	二	五二五	工作用諸機械 写真器

音楽	七四二	二〇	七六二	譜面台及録音 器、拡声装置、 電蓄その他
計	一、四二二	二四	一、四四五	

五、教科及び教職に関する専門科目並びに履修方法

学部学科		大学設置当時			現在	
学部	学科	学 科 目	必修 単位	選択 単位	学 科 目	必修 単位
音楽 作曲 学科	独唱	作曲実技	二〇		同上	同上
	ソルフェージュ		二		同上	同上
	合唱		二		同上	同上
	ピアノ		八		同上	同上
	弦楽			四		同上
	管楽			四		同上
	打楽			四		同上
	合奏		二		同上	同上
	西洋音楽史		八		同上	同上
	音楽美学		四		同上	同上
	音響学		二		同上	同上
	声乐実技		二〇		同上	同上
	ピアノ		八		同上	同上
	音楽理論		八		同上	同上

学 部 学 科	学 科 目	大 学 設 置 当 時		現 在
		必修単位	選択単位	
音楽学部 声楽科	西洋音楽史	八		同上
〃	音楽美学	四		同上
〃	音 声 学	四		同上
〃	器 楽 実 技	三六		同上
〃	ソルフエージ	二		同上
〃	合 唱	二		同上
〃	合 奏	四		同上
〃	音楽理論	八		同上
〃	西洋音楽史	八		同上
〃	音楽美学	四		同上
〃	音 響 学	二		同上
〃	指揮実技	一二		同上
〃	ピアノ	四		同上
〃	弦 楽	八		同上
〃	管 楽	八		同上
〃	打 楽	八		同上
〃	音楽理論	四		同上
〃	音楽美学	四		同上
〃	比較音楽学	四		同上

音 楽 学 部 指 揮 科	音 楽 心 理 学	大 学 設 置 当 時		現 在
		必修単位	選択単位	
音楽学部 指揮科	ソルフエージ	二		同上
〃	合 唱	二		同上
〃	ピアノ	二		同上
〃	ピアノ	二		同上
〃	オルガン			同上
〃	弦 楽			同上
〃	管 楽			同上
〃	打 楽			同上
〃	邦 楽			同上
〃	音 声 学	四		同上
〃	音 響 学	二		同上
〃	西洋音楽史	四		同上
〃	東洋音楽史	四		同上
〃	音楽理論	四		同上
〃	音楽美学	四		同上
〃	音楽心理学	四		同上
〃	比較音楽学	四		同上
〃	邦楽実技	二八		同上
〃	ソルフエージ	二		同上
〃	合 唱	二		同上

六、学部又は学科・専攻別教員組織

学部 学科	職 名	兼任 任別	の本 職 務	科担 当 目学	生氏 年 月 日名	科 目	専 名	年 月	申請大学名
音楽学部教職	教授	専任		教育原理史	田尾 明治二九・二・一八	教育原理	専任	昭和24・6・27	東京芸術大学
美術学部一般	助教授	専任		青年心理学	櫻林 大正五・八・二九	教育心理学	助教授任	26・1・19	
〃 教職	教授	専任		工作教育実習	松田 義之 明治二四・十一・九	工作教育法	教授任	26・1・19	
〃 教職	助教授	専任		図画教育実習	日下 喜一郎 明治三二・九・二八	図画教育法	助教授任	26・1・19	
音楽学部教職	講師	専任		音楽教育実習	井上 武士 明治二七・八・六	音楽教育法	講師任	26・7・20	
美術学部一般	講師	兼任	早稲田大学	憲法 法律	有倉 遼吉 大正三・二・二〇	法 学	講師任	28・12・4	

(謄写版・本表のみ手書き)

学部 学科	大学設置 科目	必修単位 選択単位	現 在
音楽学部 声楽科	ピアノ	四	同上
〃	音楽理論	八	同上
〃	音 声 学	四	同上
〃	音 響 学	二	同上

学部 学科	東洋音楽史	日本芸能史	教育原理	教育心理 (青年心理を含む)	音楽教育法	音楽実習
音楽学部 声楽科	八	四	四	二	二	二
〃	同上	同上	同上	同上	同上	同上
〃	同上	同上	同上	同上	同上	同上
〃	同上	同上	同上	同上	同上	同上

七、教育実習概要

(一) 実習学校

本学においては特別の契約により実習校を設けず、毎年本学指導教官より実習校の指導教官及び学校長にその都度依頼して実施している。その主な実習校は左記の通りである。

記

A 小学校関係

東京学芸大学竹早分校附属小学校

台東区立 下谷 〃

〃 谷中 〃

〃 根岸 〃

〃 黒門 〃

〃 坂本 〃

B 中学校関係

東京学芸大学竹早分校附属中学校

上野学園中学校

中野区立 第八 〃

世田ヶ谷区立松沢 〃

葛飾区立 大道 〃

台東区立 台東 〃

C 高等学校関係

上野学園高等学校

東京都立 竹早高等学校

〃 白鷗 〃

東京都立 豊島高等学校

〃 上野 〃

(二) 教育実習指導計画

イ 教育実習計画

A 実習期日

前期 実習についての指導と実習校における実地教授を併せ行う。

後期 各実習校における実地教授を主として行う。

B 人員配置

音楽 常任講師 井上 武士

図画 助教授 日下 喜一郎

工作 教授 松田 義之

ロ 教育実習の指導方法、組織

A 受講者

主として教職課程を履修した最高学年のものを優先させる。

B 方法

各班から授業者を選出しその実地授業を参観し、研究会を開いて実習する。

C 組織

受講者全員を一〇名から二〇名ぐらいの班に編成実施する。

(別表第二)
音楽学部学科課程履修表

音 楽 学 部		
一般教養科目 (各科共通)		
人文科学関係		12 (3科目)
哲学		
倫理		
国文学		
文学論		
美術		
社会科学関係		12 (3科目)
法学		
社会学		
教育史		
歴史		
文化史		
考古学		
人類学		
心理学		
生物物理		
数物理学		
地理学		
自然科学関係		12 (3科目)
		36 (9科目)

外国語科目 (各科共通)		
英語	4 (1科目)	体育科目 (各科共通)
仏語		
独語		
伊語		
露語		
講義	2	4
実技	2	

		実 技										音楽理論	西洋音楽史(一般)	音楽美学(一般)	音声学	朗読法	音響学	専攻別 (実習) (講義)	オルガン演奏理論	楽理基礎科目	楽理特殊講義	楽理選択科目	東洋音楽史	比較音楽学	音楽心理学	楽書講読	外(公、独、伊、英、露)語
		専攻実技	独唱	ソルフェージュ	合唱	ピアノ	オルガン	弦楽	管楽	打楽	邦楽	合奏	總譜視奏法	指揮法													
作曲科	一般	20	2	2	2	8			4			2	4	(4)		2	2	(2)								8	
	教員志望	20	2	2	2	8			4			2	4	(4)		2	2	(2)								8	
声乐科	一般	20				8							(4)		8	8	4	4	(4)								16
	教員志望	20				8							(4)		8	8	4	4	(4)								16
器楽科	ピアノノ攻	一般	36	2	2						4		(4)		8	8	4		2	2	(2)						
	教員志望	36	2	2							4		(4)		8	8	4		2	2	(2)						
楽科	オルガン攻	一般	28	2	2	8					(4)		(4)		8	8	4		2	2	(2)	4					
	教員志望	28	2	2	8						(4)		(4)		8	8	4		2	2	(2)	4					
科	弦管打攻	一般	34	2	2	8							(4)		8	8	4		2	2	(2)						
	教員志望	34	2	2	8								(4)		8	8	4		2	2	(2)						
指揮科	一般	12				4		8							4								4	4			
	教員志望	12				4		8							4								4	4			
楽理科	一般		2	2	8	(ピアノ2を含む)							(4)			(2)				24	4	8			6		14
	教員志望		2	2	8	(ピアノ2を含む)							(4)			(2)				24	4	8			6		14
邦楽科	一般	28	2	2	4										8		2	2	(2)				8				
	教員志望	28	2	2	4										8		2	2	(2)				8				

		日本 芸能史	邦楽 概論	卒業 作品	卒業 演奏	卒業 論文	卒業 特別研究 作品	卒業 特別研究 演奏	卒業 特別研究 論文	教 職 科 目				合 計
										教育 原理	青年心理 学を含む	音楽教育 法	音楽教育実習 (教材教育を含む)	
作曲科	一般			2			10							80
	教員志望			2		(10)				4	2	2	2	80
声楽科	一般				2			10						80
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	80
ピアノ 器楽 専攻	一般				2			10						80
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	80
オルガン 専攻	一般				2			10						80
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	80
弦管打 奏科 専攻	一般				2			10						80
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	80
指揮科	一般				2			10						52
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	52
楽理科	一般				2			10						80
	教員志望				2		(10)			4	2	2	2	80
邦楽科	一般	4	4		2									80
	教員志望	4	4		2		(10)			4	2	2	2	80

備考

- (1) 「教員志望」は、特別教科教員養成課程の者を含む。
- (2) 単位数に () を附せるは、随意履修とする。
- (3) 指揮科の単位は後期二ケ年に於いて修得すべきものである。

前期二ケ年は作曲科、声楽科、器楽科、楽理科に於いて62単位(一般(28)、外国語(4)、体育(2)、専門(28))を修得するものとする。

- (4) 楽理基礎科目は次のとおりである。

西洋音楽史(専門)、東洋音楽史、音楽理論、音楽美学(専門)、音楽心理学、比較音楽学。

- (5) 楽理選択科目は次のとおりである。

美学概論、古楽実習、この外学部内の、他の科又は、美術学部芸術学科の講義、演習等のうち、その履修が有益であると認められたものを含む。

(タ17)

(昭和二十九年三月 教員養成課程認定申請書 東京芸術大学J)